

## 平成28年度第2四半期決算経営協議会開催 中間決算過去最高！業績予想 について単体で上方修正！

本部は10月28日、平成28年度第2四半期決算の経営協議会を開催しました。会社は第2四半期決算について「連結損益は営業収益8,667億円、営業利益3,347億円、経常利益3,066億円、純利益2,149億円で過去最高となった。平成28年度の業績予想を、通期では据え置くが単体で上方修正し、営業収益13,640億円、営業利益5,670億円、経常利益5,100億円、当期純利益3,600億円とする」などを明らかにしました。

これに対して、小林委員長から以下の項目で見解を求めました。

①好調な業績はすべての組合員・社員の日々の努力によるもの。これに報いるため年末手当を要求通り3.5ヶ月支給すること。②来年J R 発足30年で組合員・社員の努力に報いるため、一時金、記念品など支給すること。③新人事賃金制度が導入されて10年が経過したが、社員の賃金格差が広がっている。定期昇給が低減する賃金制度を改善すること。④今年度のベースアップ配分で等級・区分による格差がつけられた。ベアは基本給に一律配分すること。⑤現場社員の声を受け止め、労働条件改善、職場環境改善のための設備投資に利益を振り向けること。⑥休日労働、年休取得に関する改善のため、適正な要員配置をはかること。⑦高齢者の働き方について制度を見直し、時代に適合した改善をはかること。⑧財政投融资を活用したリニア中央新幹線の早期開業に向けてとの計画の細部について、組合側と協議すること。⑨リニア計画に対する、国土交通省に建設認可の取り消しを求めた訴訟についての見解を明らかにすること。⑩自然災害に備えた、安全確保、異常時対応のための設備投資をより強力で速やかに推し進めること。⑪海外における高速鉄道、リニアプロジェクトの進捗状況、投資状況を明らかにすること。⑫子会社日本車輛製造の損失計上の原因と見解を明らかにすること。⑬健全な労使関係の構築に向けて労使協議を充実させること。⑭期末手当の、成績率適用による減額のための勤務成績の査定が不透明。恣意的判断による減額をあらためること。 ※詳細は業務速報No.1010号を参照して下さい。

## 好業績に踏まえ、年末手当は3.5ヶ月分満額支給すること！